

本業の雇用労力を活用し農業に参入

(株式会社藤井建設)

<法人の概要>

所在地：鹿児島県伊佐市

設立：昭和 39 年 4 月

資本金：2,000 万円

経営面積：2.7ha

作付作物：焼酎用さつまいも

農業開始時期：平成 16 年 4 月



自社の建設機械で耕作放棄地を整備



広大な農地に作付けされたさつまいも

<農業参入に至った経緯・動機>

- ・建設業を営みながら農村地域の高齢化による耕作放棄地の増加を実感していた。
- ・公共事業が減少傾向にあり、従業員の雇用が厳しい状況となる中、事業の多角化を模索していた。
- ・地元銘柄の焼酎原料用さつまいもが不足していること、さつまいも栽培は時期的に本業と作業が重ならないことから農業への参入を決断した。

<農業参入することを決めてから営農開始まで>

○農地の借入

農業委員会に相談し、特定法人貸付事業を活用し農地を借入したところ、面積の小さい耕作放棄地がほとんどであったので、自社の重機で雑草や雑木を抜根した後、基盤整備して広い畑に再生した。

○栽培品目の選定

需要が高く、安定して出荷出来る焼酎原料用さつまいもに取り組むこととした。

○機械・施設整備

トラクターは自社で購入し、その他の機械は建設業で使用していたものを活用することとした。

<営農開始から現在まで>

○栽培技術の習得

県や農協等の技術指導を受けているほか、地域農政推進協議会が作成した栽培マニュアルが参考となっている。

○課題

- ・機械力を生かしての栽培面積の拡大を図っているが、借地が点在しているため作業効率が悪い。
- ・耕作放棄地の周辺での鳥獣害の被害が大きく、対策等に費用がかかっている。
- ・栽培技術や地力の問題から、まだ十分な収量が上がっていない。

○地元から耕作放棄地の活用を通じての景観確保・雇用維持で感謝されている。

<今後の農業経営の展開方向>

- ・経営改善計画の認定を受け、計画的な規模拡大を行うための各種事業資金の活用を図る。
- ・借用した農地の地力が異なることから、土壌分析結果に基づき作物に適した土作りを行い、収量の向上を図る。
- ・地域の農業者と連携し、伊佐地域の気候を生かした新たな品目の選定・導入を図る。

<今後農業に参入しようとする法人に対するアドバイス>

- ・参入に当たっては販路の確立は欠かせない。また、長期的な視点で資金計画や機械の導入を考える必要がある。技術面を含め関係機関によく相談し、必要な支援を受けるとよい。
- ・農業は地域の農業に従事している人達と協力して地域と共に発展するという考えで取り組む必要がある。



従業員総出で植え付け



地元銘柄焼酎原料用として出荷